

向日町競輪場敷地の再整備について

～京都アリーナ(仮称)・競輪施設の整備～

京 都 府

■本日の説明会について

皆様におかれましては、向日町競輪場の運営について、平素より多大なるご理解とご協力をいただき大変感謝申し上げます。

京都府では、向日町競輪場敷地の再整備（京都アリーナ（仮称）や競輪施設の整備）を進めていくこととしており、単に施設整備にとどまらず、スポーツや経済振興、多世代交流や地域ブランドの向上など、地域活性化につながる「まちづくり」として取り組んでいるところです。

本日は、これまでに皆様からいただいたご意見なども踏まえ、京都アリーナ（仮称）や競輪施設の整備、より良い地域としていくための周辺環境の整備などについて、ご説明をさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

■目 次

1. 向日町競輪場敷地の再整備について.....	3
2. 京都アリーナ（仮称）の整備について.....	8
3. 競輪施設の整備について.....	25
4. 周辺道路等の整備について.....	26

1. 向日町競輪場敷地の再整備について①

＜向日町競輪場の現状について＞

- 向日町競輪場は、昭和25年の開設以来、地域の皆様のご理解とご協力により運営をし、その収益を一般会計に計474億円の繰り出しを行うなど、京都府財政に貢献
- 一方、施設の多くが昭和40年代に整備されており、耐震基準を満たさない投票所や大規模改修が昭和61年度以降行われていない競走路（バンク）など、老朽化が著しい状況
- 近年は、インターネット投票やミッドナイト競輪開催等により売上が増加する一方、実際に競輪場に足を運ぶ来場者数は減少



＜敷地再整備の方向性＞

- 将来にわたり持続可能な競輪事業の運営を行うとともに、多用途利用に対応したアリーナを整備し、地域住民をはじめとした府民の皆様の憩いの場、幅広い方が日常的に訪れる交流・賑わいの拠点として、敷地全体の再整備を計画
- 競輪施設・アリーナの整備をきっかけに、スポーツや経済振興、多世代交流や地域ブランドの向上など、向日市をはじめとする周辺地域との協働により地域活性化につながる「まちづくり」に取り組む

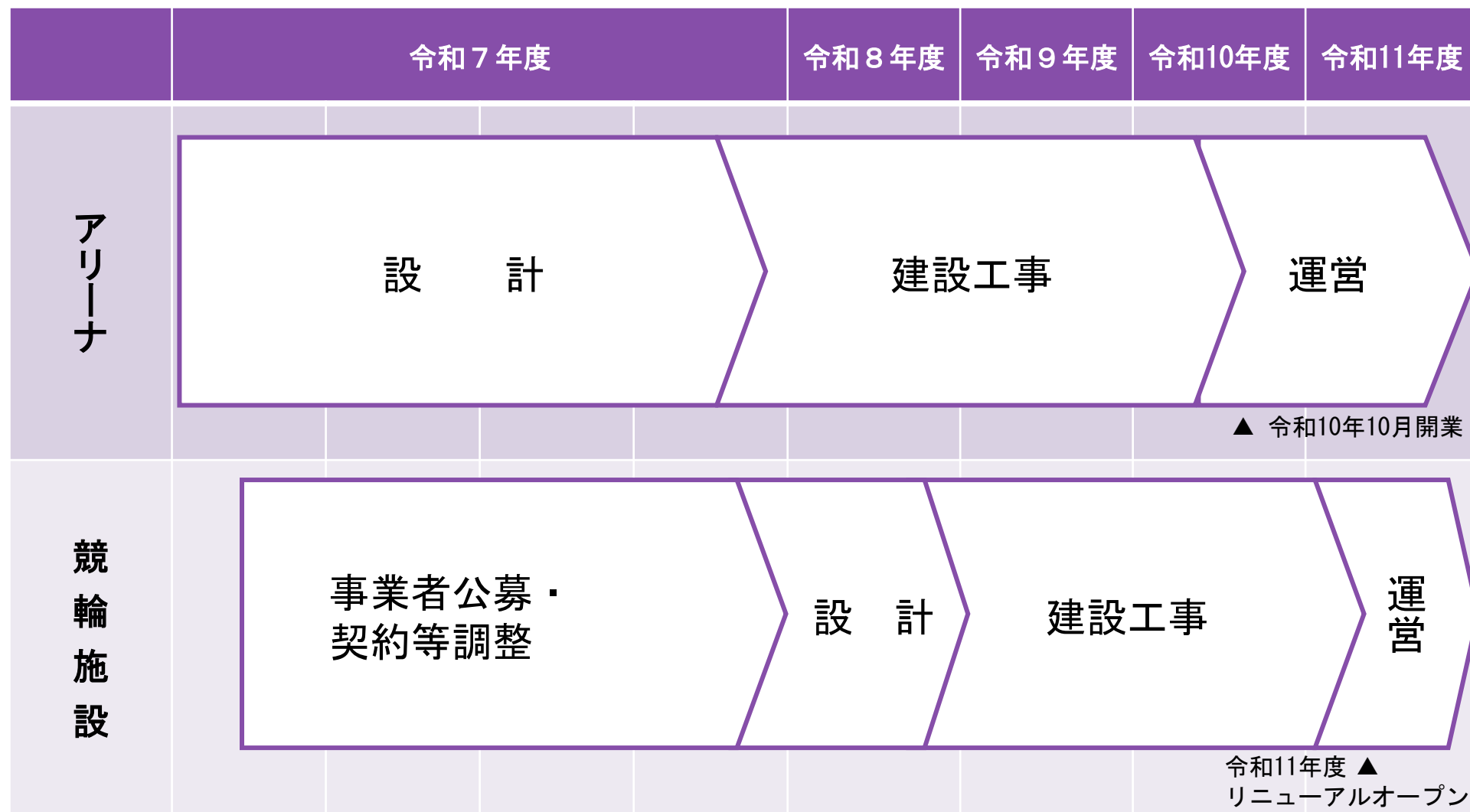
1. 向日町競輪場敷地の再整備について②

＜主な経過＞

R 4 年	3 月	京都府包括外部監査(向日町競輪場)	一時は、単年度収支の赤字が続くなど、競輪事業の存続が危ぶまれたが、インターネット投票による売上増加等を踏まえて「存続させるべき」との結論
R 5 年	10月	向日町競輪場基本構想(中間案)に係る説明会	競輪場再整備の方向性や余剰スペースの屋内スポーツ施設としての活用等について中間案を示し、パブリックコメント(72件)・説明会(計2回・73名参加)を実施
R 6 年	2 月	向日町競輪場整備に係る説明会	策定した基本構想を基に説明会(計2回・81名参加)を実施
	3 月	アリーナ整備地を決定	競輪場再整備との相乗効果、屋内スポーツとサイクルスポーツを含めた府内スポーツ振興の拠点として整備が期待できることから向日町競輪場敷地内にアリーナを整備することを決定
	6 月	アリーナ整備等に係る説明会	アリーナの機能やその規模の概要等について説明会(計2回・403名参加)を実施
	11月 ～ 3 月	アリーナ優先交渉権者の決定、契約締結	公募により受けた提案を踏まえ、優先交渉権者を決定、事業契約を締結
R 7 年	4 月 ～ 5 月	競輪場敷地再整備に係る説明会	アリーナ事業や今後予定している競輪施設の整備、より良い地域としていくための周辺環境の整備などについて説明会(計8回・631名参加)を実施
	8 月	競輪場敷地再整備に係る現地事務所の設置	京都アリーナ(仮称)の整備や向日町競輪場の再整備に関する地域の皆様からのお問い合わせなどにきめ細かく対応するため、競輪場敷地内に現地事務所を設置
	10月	競輪場優先交渉権者の決定	公募により受けた提案を踏まえ、優先交渉権者を決定
R 8 年	1 月	競輪場敷地再整備に係る説明会【今回】	アリーナ工事や競輪事業の概要、より良い地域としていくための周辺環境の整備などについて説明会を実施

1. 向日町競輪場敷地の再整備について③

<今後の予定>



1. 向日町競輪場敷地の再整備について④

＜老朽化した競輪施設の解体について＞

競輪場敷地の西側から順次、解体工事を実施（併せて、埋蔵文化財調査も実施）



工事期間：令和8年4月～令和9年3月予定

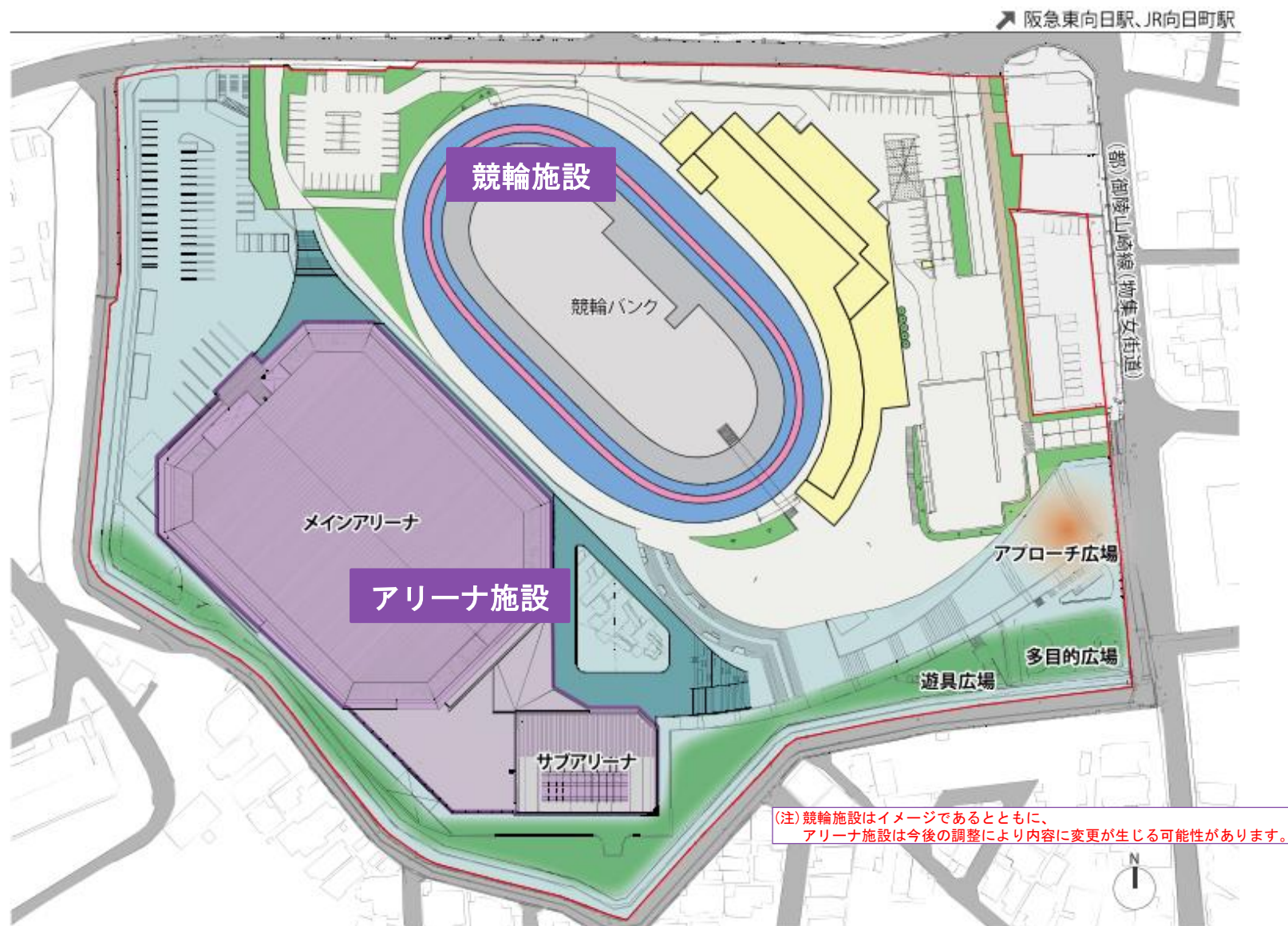
工事期間：令和6年6月～令和8年7月(予定)

安全対策、騒音・振動・粉塵対策

- ・仮囲いによる粉塵飛散防止、騒音軽減
- ・粉塵発生作業時の散水等の徹底
- ・低騒音・低振動の工法や工事機械を採用
- ・交通誘導員による工事車両の誘導の徹底

1. 向日町競輪場敷地の再整備について⑤

＜敷地全体の再整備イメージ＞



2. 京都アリーナ（仮称）の整備について①

長期的な視点で「施設整備から維持管理・運営まで」を一体的に行うことにより、“地域に愛されるアリーナ”として地域と共に“まちづくり”に貢献していく計画

<事業概要>

1. 事業者グループ(計10社)

- 伊藤忠商事株式会社【設計・整備期間のプロジェクトマネジメント】
- 株式会社梓設計【設計・監理】
- 株式会社大林組【建設】
- 株式会社電通【維持管理・運営期間のプロジェクトマネジメント】
- 株式会社ハリマビシステム【維持管理】
- 協栄ビル管理株式会社【維持管理】
- 伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社【維持管理】
- シンコースポーツ株式会社【運営】
- NTT・TCリース株式会社【ファイナンス】
- 京銀リース株式会社【ファイナンス】

2. 事業期間

- 設計期間
令和7年3月～令和8年2月
- 建設期間(新築工事)
令和8年3月～令和10年7月
※準備工事期間：令和8年1月下旬～
- 開業準備作業
令和10年8月～令和10年9月
- 開業時期
令和10年10月
- 維持管理・運営期間
令和10年7月～令和20年3月(9年9箇月)【第1期】
令和20年4月～令和30年3月(10箇年)【第2期】
令和30年4月～令和40年3月(10箇年)【第3期】
※10年毎の契約更新により計29年9箇月の維持管理・運営を想定

3. 事業方式

- 設計施工から維持管理・運営までを事業者グループにおいて一体的に実施（DBFO方式）

4. アリーナ施設の仕様

※今後の設計等により変更が生じる可能性あり

- 延床面積
27,609.72㎡（S造・地上5階）
- 高さ
30.59m（メインアリーナ）
17.10m（サブアリーナ）
- 座席数
8,900席程度（スポーツ利用）
9,300席程度（コンサート利用）
- 競技面
68m×48m（メインアリーナ）
38.7m×22.5m（サブアリーナ）

5. 府負担額

- 施設整備費
348億5千2百万円
- 維持管理・運営費
府の負担なし（第1期）

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-1

■事業の目的

本事業は、国際大会等の質の高いスポーツ観戦機会の提供を通じて**府民がスポーツに親しむ機会**を確保するとともに、バスケットボールやバレーボール、卓球などの**屋内スポーツの普及、振興**、そして**ムーブメント醸成**に寄与する**新たな屋内スポーツ施設として、本施設の整備・運営等を行う**ことを目的とします。同時に、コンサートやアーバンスポーツなどのイベント開催といった未来に向けた**新しい文化スポーツの発信拠点**になるとともに、**府民のレジャーや憩いの場、防災施設**などの**多目的・複合的な機能**を併せ持った、**地域に賑わいを作り出す施設**とすることを目指します。

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-2



アリーナ北東側をみた外観イメージ

(注) ・競輪施設はイメージであり、別途計画中で今後の設計などにより内容に変更が生じる可能性があります
・本パースについてはアリーナ事業者が作成したものです

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-3

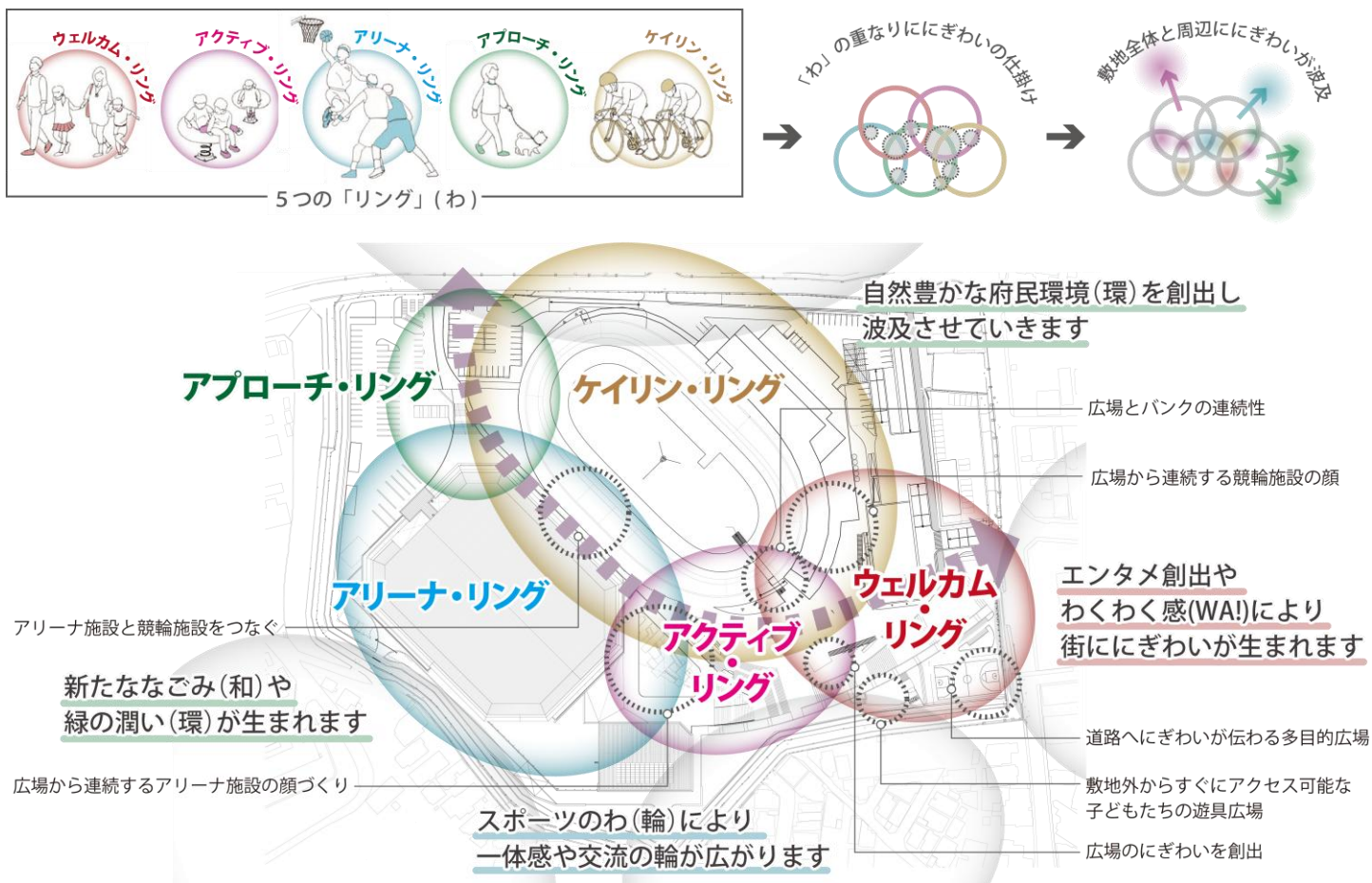
■施設整備コンセプト

アリーナと競輪場をつなぎ、地域に賑わいを広げる **「かさねわ」**
～5つの「和」・「輪」・「環」・「話」・「WA」～



2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-4

■施設整備コンセプト



2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-5

■デザインコンセプト「帯」

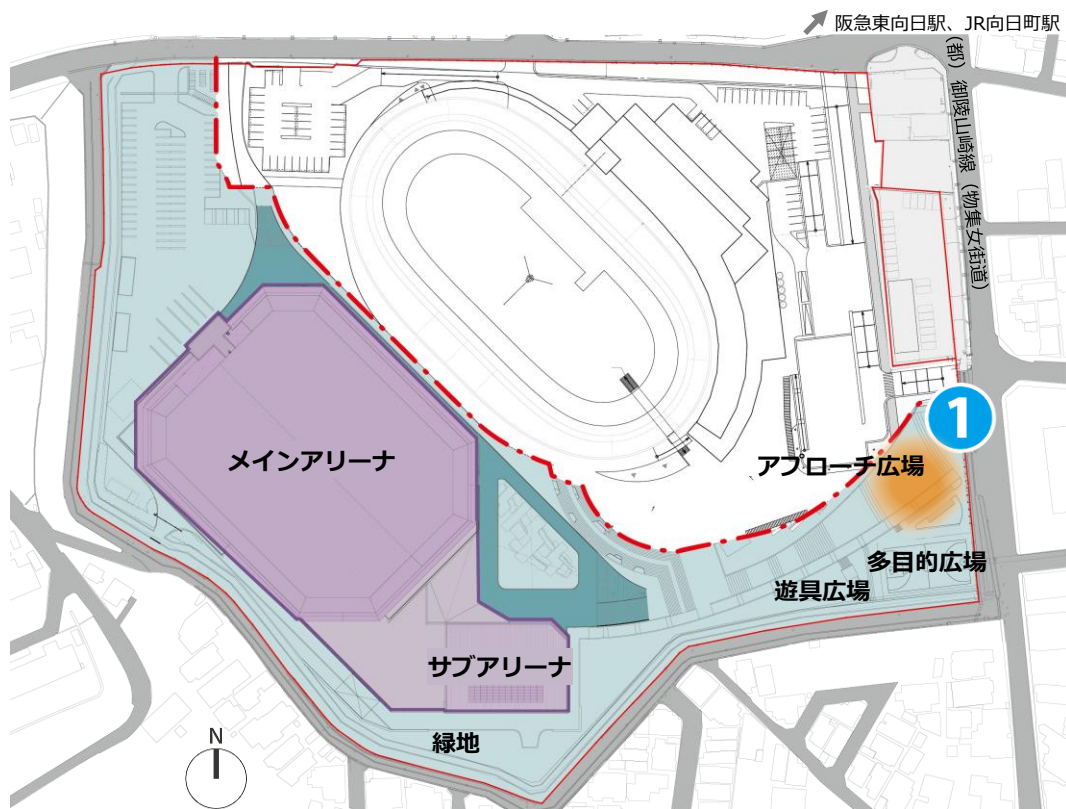


- 「帯」を建築全体のデザインコンセプトとし、**アリーナを包み、導く象徴的な意匠要素**として展開します。庇や帯状の外装デザインを建物全体に巡らせることで、京都の伝統的な意匠や装束文化と響き合いながら、**空間にリズムと連続性**をもたらしめます。各リングを活かして様々なイベントを開催し、アリーナと競輪場の来場者及び地域住民の交流拠点として活用します。
- 阪急電車よりみられる敷地背景の西山連峰の横の広がりモチーフとして採用し、**水平感を強調した建物デザイン**とし、周辺の住民への圧迫感を低減します。アリーナとサブアリーナをひとつの帯で結び、施設全体に一体感と動線の明快さを創出するとともに、「かさねわ」の思想に基づく重なりや多層性をデザインに反映します。

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-6

■配置計画の基本方針

来場者・関係者・地域住民の利便性と安全性を両立する配置計画

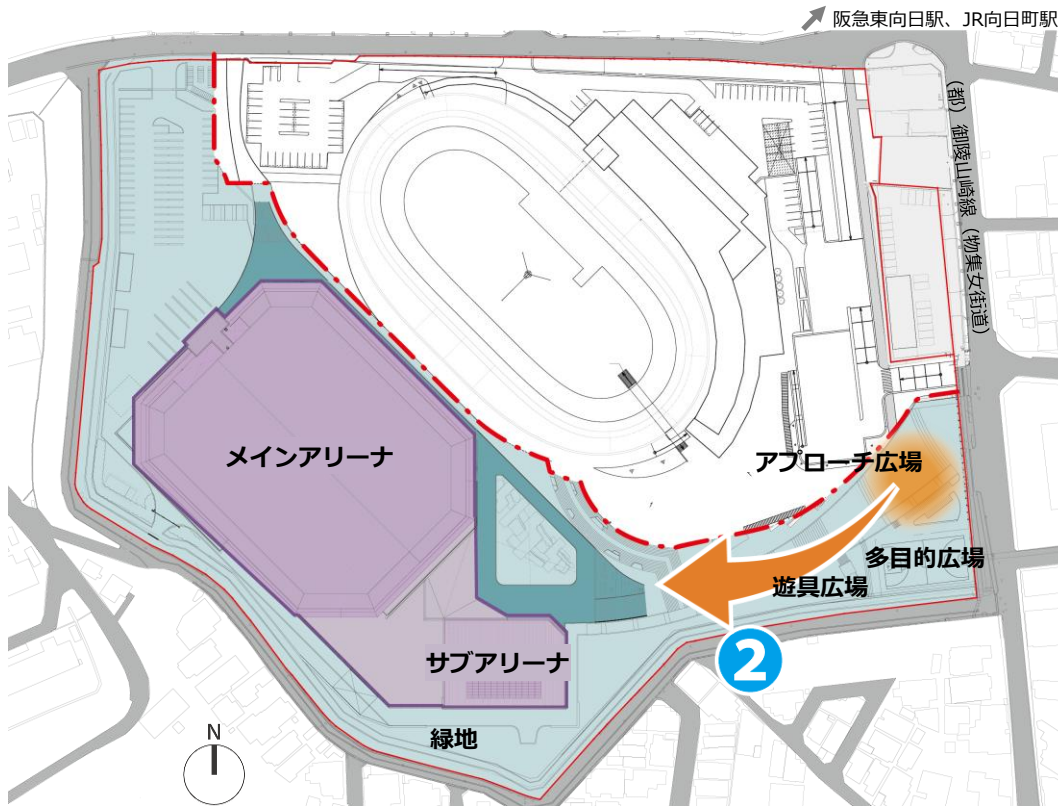


- 主に駅から徒歩でアクセスする来場者に対して、東側（都）御陵山崎線（物集女街道）沿いにアプローチ広場を設けます。①
- 広場は 盛土や切土を 最小限に抑え、**現況の高低差を活かした**計画とします。

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-7

■配置計画の基本方針

来場者・関係者・地域住民の利便性と安全性を両立する配置計画

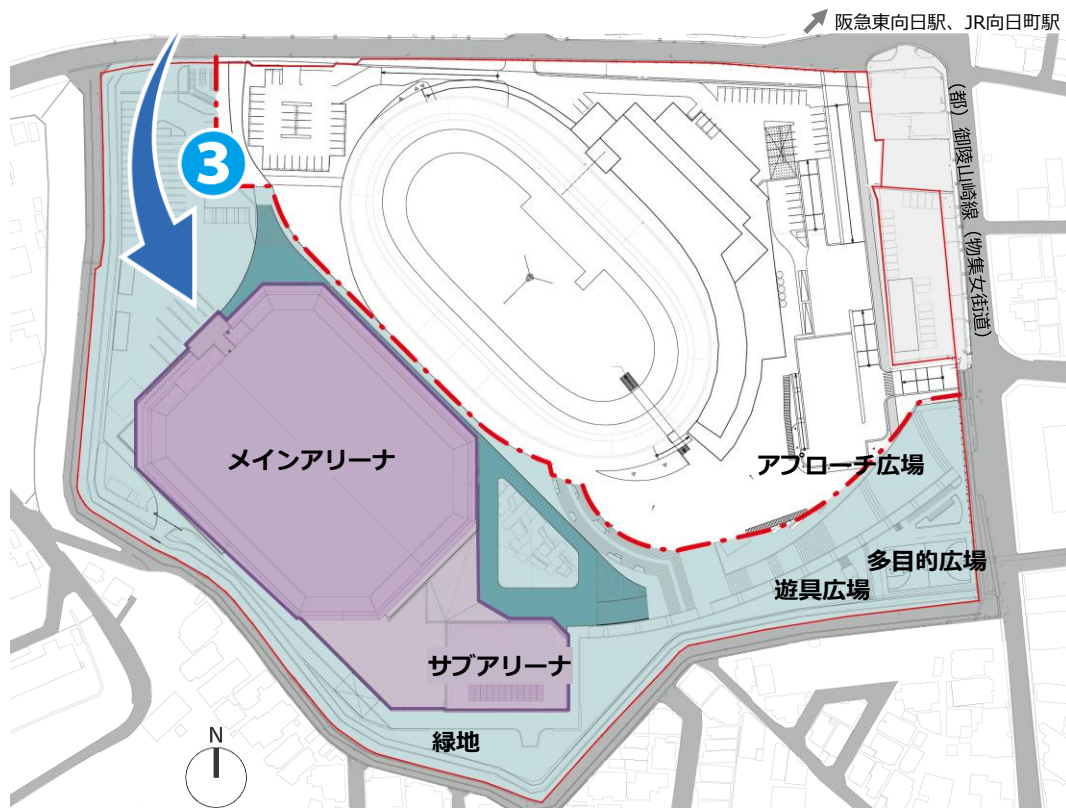


- アリーナ2階エントランスへつながる大階段までは、バンクにつながる曲線状でゆるやかに傾斜したスロープとし、来場者が南側住宅地へ進入せず**自然とアリーナへ導かれる動線計画**とします。②

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-8

■配置計画の基本方針

来場者・関係者・地域住民の利便性と安全性を両立する配置計画



- ・ 関係者駐車場は敷地北西に設け、アリーナへのアクセスを最短とするとともに、既存の北側車両出入口を利用した効率的な計画とします。③
- ・ 北西側の敷地内駐車場は関係者のみが利用する駐車場として整備いたします。

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-9

■配置計画の基本方針

来場者・関係者・地域住民の利便性と安全性を両立する配置計画



- 北西側に徒歩による敷地出入口を設け、駅側の敷地南東アプローチ広場を結ぶ動線を確保し、**敷地内を通り抜けられる計画**とすることで府民への利便性を図ります。④

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-10

■配置計画の基本方針

住環境への配慮とランドスケープによる緩衝配置

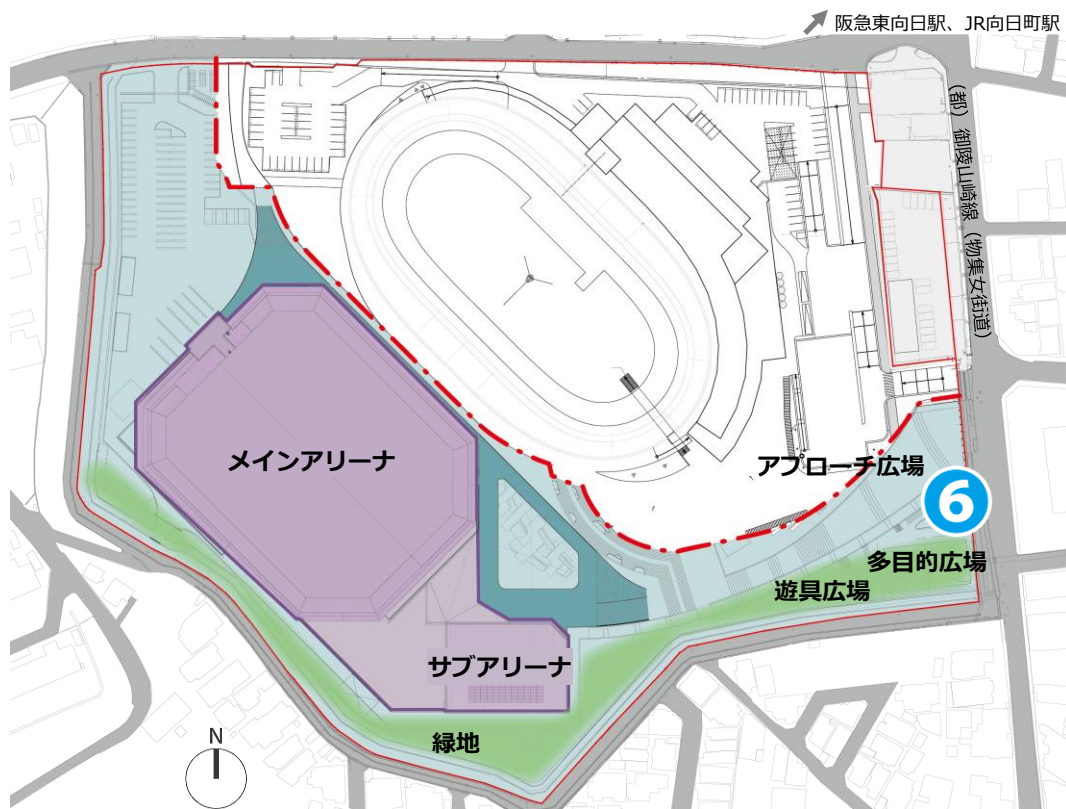


- アリーナは、南西に広がる**住宅地**からできる限り**離隔を確保した配置**とし、住宅地に面する敷地境界沿いを**広場や緑地**として整備することで、**住宅地への圧迫感の低減**を図り、地域住民の**憩いの場**となる計画とします。⑤

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-11

■ 配置計画の基本方針

住環境への配慮とランドスケープによる緩衝配置

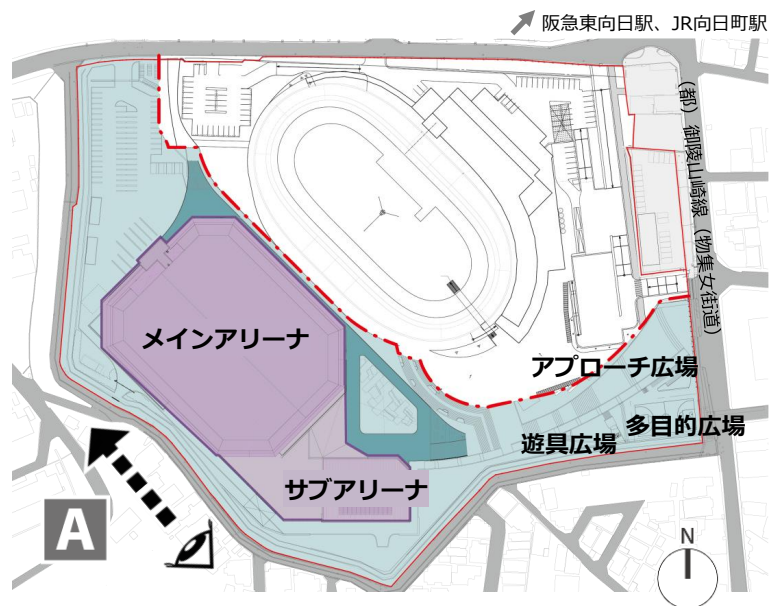


- **多目的広場**を敷地南東角に配置し、**球技ができる広場**とします。東側道路からにぎわいが見られ、南側住宅地への騒音にも配慮した配置計画とします。 ⑥

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-12

■ 配置計画の基本方針

住環境への配慮とランドスケープによる緩衝配置

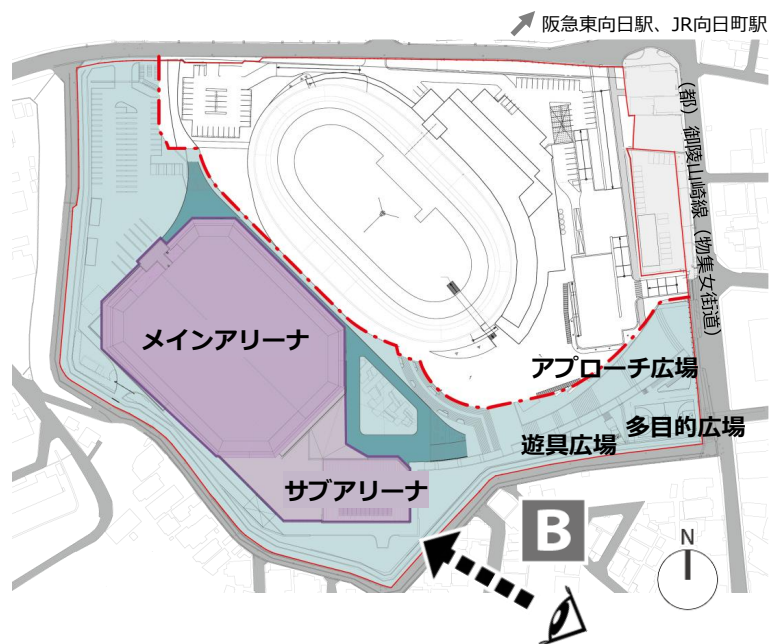


A 歩行者の視線からのイメージ

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について②-13

■ 配置計画の基本方針

住環境への配慮とランドスケープによる緩衝配置



B 上空からのイメージ

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について③-1

1. 全体工程表及び工事車両の1日平均台数(予定)

	年 月	2026年												2027年												2028年												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
工 事 期 間		新築工事：2026年3月～2028年7月末（29ヶ月）																																				
準 備 工 事		準備																								外構工事・開業準備												
掘 削 ・ 杭 工 事		掘削・杭																																				
基 礎 ・ 1 階 床 工 事		基礎・1階床												1階床																								
鉄 骨 工 事														鉄骨																								
仕 上 げ 工 事																										仕上げ												
サブアリーナ工事		サブアリーナ																								サブアリーナ												
外部デッキ工事																										外部デッキ												
外 構 工 事																										外 構												
工事車両通行台数 （一日平均・予定）		10台程度 最大20台				100台程度 最大130台				50台程度 最大70台				30台程度 最大50台								70台程度 最大110台																

2. 作業日及び作業時間

- ・作業日：月曜日～土曜日
- ・休業日：日曜日、祝日
(年末年始等の現場休業予定は仮囲いに掲示)
- ・作業時間：8時～18時
- ・8時から朝礼実施後作業開始
- ・18時に作業終了、片付け・清掃等実施後に退場
- ・通勤車両からの道具などの荷下ろし、積み込みや作業員の入退場は作業時間外となります。
- ・コンクリートポンプ車の入場、打設前の準備及び鉄骨の搬入、建て方の準備は7時より行います。

3. 工事期間中の主な仮設計画



- 現場周囲は仮囲いを設置し騒音や粉塵飛散低減に努めます。
- 現場への出入口ゲートは、柚原向日線に面する北ゲート、敷地東側に東ゲート、計2ヶ所設置します。
各ゲート使用時は、交通誘導員を配置し、歩行者や一般車両の安全確保に努めます。
- 場内の工事車両が通行する場所は鉄板を敷くことで、車両の粉塵巻き上げ防止に努めます。
- 建物周囲は外部足場を設置しメッシュシートを張ることに
より、外部への飛散防止措置を行います。

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について③-2



4. 工事車両の動線

- ・北ゲート：「②大原野口 交差点」を通らないルートがメイン
- ・東ゲート：「⑦競輪場前 交差点」を直進入場・直進退場

5. 時間外作業・休業日作業

- ・所轄警察署等より指導があった特殊車両の搬入・搬出
- ・建物内部で行う内装仕上げ作業
- ・品質管理上及び安全管理上、途中で中断出来ない作業
(例)コンクリート打設、打設後の床左官仕上げ作業
鉄骨建て方作業等(後片付けを含む)

- ・交通事情等により資機材搬入時間が遅れた場合
- ・現場周辺で電気・ガス等の引込工事がある場合
- ・台風の接近等、緊急に対応する必要がある場合

6. 工事安全対策

- ・関係者以外立ち入り禁止の徹底
- ・出入口施錠の徹底、仮囲いに防犯カメラを設置
- ・飛散、落下防止策の徹底
- ・火災防止の徹底、消火体制の整備

7. 騒音・振動・粉塵対策

- ・低騒音・低振動の工法や工事機械を採用
- ・空ぶかし、アイドリング禁止の徹底
- ・仮囲いによる粉塵飛散防止、騒音軽減
- ・粉塵発生作業時の散水等の徹底

8. 交通安全対策

- ・交通誘導員の適正配置
- ・工事関係車両の安全運転徹底
- ・周辺道路での待機駐車禁止
- ・タイヤ洗浄の徹底
- ・道路交通法遵守

9. 近隣建物等の保全

- ・施工時の周辺建物への配慮の徹底

10. 工事関係者の管理

- ・違法駐車禁止の徹底
- ・工事関係者への日常指導の徹底

2. 京都アリーナ（仮称）の整備について④

■ 交通誘導計画

来場者の混雑緩和を目的とし、下記の方針で誘導計画を検討します。

① 基本方針

- 周辺道路の混雑緩和の観点から、公共交通・徒歩での来場を基本に誘導計画の検討を行います。
- 東向日駅、西向日駅、向日町駅から複数の幹線道路へ誘導することで、来場者の分散を図ります。
- 誘導ルートは、図に示している3案を軸に検討を進めております。なお、今後の検討状況により、適宜見直しを行います。

② 対策案の検討

- 混雑緩和、交通安全性の向上を図るため、ソフト・ハードの両面から対策の検討を行います。
 - 事業者によるソフト対策
(規制退場、誘導員配置等による入退場者の分散
広報等による来場者への周知等)
 - 京都府によるハード対策
(道路改良、交差点改良、道路施設整備の検討等)
 - その他(交通規制等)

■ 来場者の誘導ルート(案)



3. 競輪施設の整備について

別紙「競輪事業者提案概要」を参照

<事業概要>

1. 事業者グループ（計4社）

株式会社JPF
株式会社ストラクト
株式会社東畑建築事務所 本社オフィス大阪
株式会社ナカノフドー建設 大阪支社

2. 事業期間

- 設計・建設期間
令和8年4月～令和11年6月
- 開業時期
令和11年7月
- 維持管理・運営期間
令和8年4月～令和31年3月(23年)
※再整備期間中は場外発売業務を実施

3. 事業方式

- 設計施工から維持管理・運営までを事業者グループにおいて一体的に実施（DBO方式）

4. 優先交渉権者の提案内容

- 主な施設の仕様
バンク：周長333m
選手宿舎・管理センター・スタンド（合築）：
4階建て、延床8,463㎡
- 提案価格
施設整備費：10,529,999,700円
維持管理・運営費：本場開催委託料率3.26%

※現在、事業者と個別契約締結に向けて調整中。

4. 周辺道路等の整備について①

公共交通機関での来場を徹底し、公共交通機関で来場していただくよう誘導。

《基本的な方向性・具体的な方策》

- アリーナ・競輪場の来場者アクセスについては、公共交通機関の利用をメインとし、分散ルートでの来場者の誘導を行う。
- 徹底したソフト対策と、効果的なハード整備を検討し、分散ルートでの来場者の誘導の円滑化を図る。
 - ・ 公共交通機関でのアリーナ来場を徹底し、車での来場を抑制
 - ・ アクセスの分散化
 - ①時間による分散化（例：イベント前のグッズ販売、時差退場の徹底 等）
 - ②ルートによる分散化
（例：誘導員によるルート誘導、飲食店等への誘導、シャトルバスの運行 等）

⇒歩行者を時間・ルート等で分散

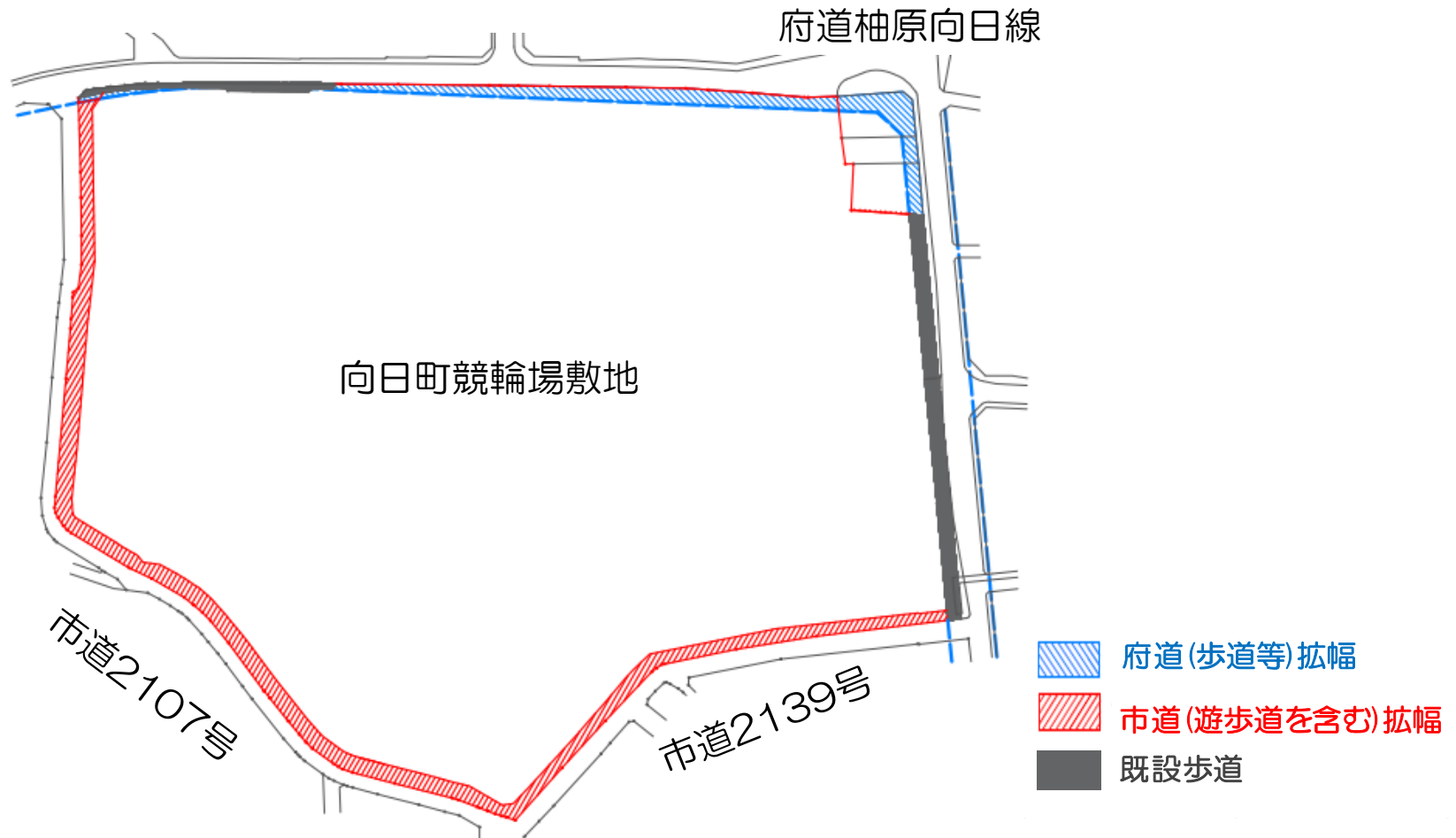
〔今後の進め方〕

- ・ 分散ルートでの来場者の誘導について、ソフト・ハード両面から、引き続き必要な対策を検討
（歩道の狭隘箇所の改善、競輪場周辺の都市計画道路御陵山崎線を立体的に横断できる施設の検討等）
- ・ 実施に当たっては、運営事業者、自治体、道路管理者、交通管理者、鉄道各社等と協議のうえ実施

4. 周辺道路等の整備について② ～外周道路の歩行者空間創出～

＜向日町競輪場敷地周囲の道路整備による環境改善＞

- 競輪場敷地の西側・南側の向日市道を拡幅し、住宅側に歩道を、競輪場側には遊歩道を整備し、市道両側に歩行者専用空間を創出
- 競輪場北側の府道柚原向日線についても、競輪場敷地を活用し歩道を整備



4. 周辺道路等の整備について③ ～外周道路の歩行者空間創出～

＜外周道路の整備＞

向日市道2107・2139号線の整備

＜整備内容＞ ※施工等については向日市と今後調整

- 道路幅を拡幅し、
 - 2.5mの歩道（住宅側）
 - 5.5mの車道
 - 2.5mの遊歩道（競輪場側）の道路に整備
※現況幅員や高低差が区間ごとに異なるため詳細は今後調整
- 既存のコンクリート擁壁とトタン塀は全て撤去し、敷地セットバック後、敷地高低差は、最小限の擁壁と法面処理し、緑化を図る

府道柚原向日線の整備

＜整備内容＞

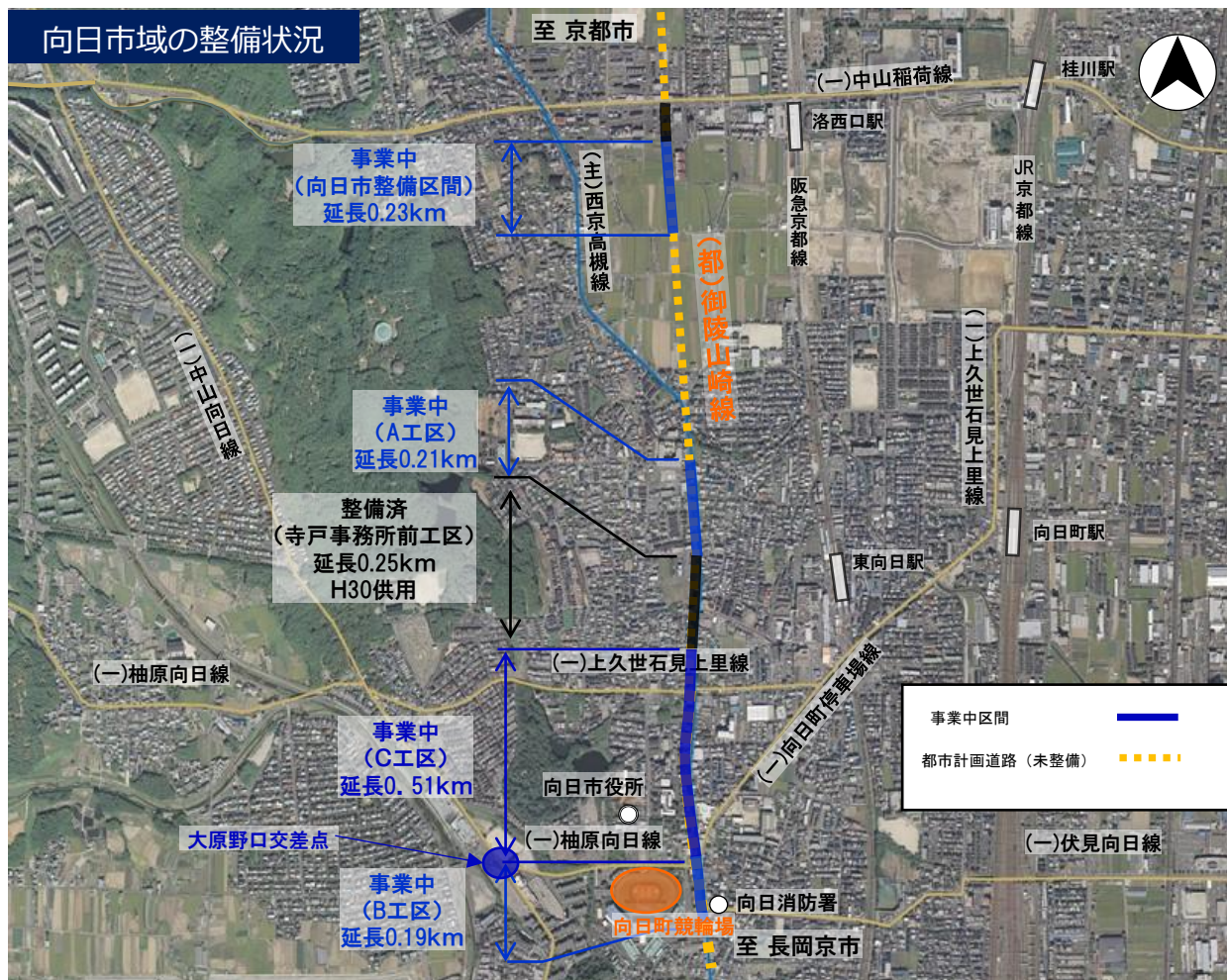
- 競輪場北側の区間に歩道を整備
- 都市計画道路御陵山崎線の福祉会館前交差点の南西箇所も整備し歩道を設置

＜整備効果＞

- 通学路に指定されている市道に、歩道を設置することで、登下校時の安全性が向上
- 競輪場西側・南側の圧迫感のある外観から、擁壁を最小限度にとどめ、敷地高低差は、法面処理し、芝生と樹木を植栽し住宅地と調和を図る開放的でオープンな空間に改善
- 競輪場敷地の外周約1kmの切れ目のない歩道を整備し、安全に周遊できる憩える空間を創出

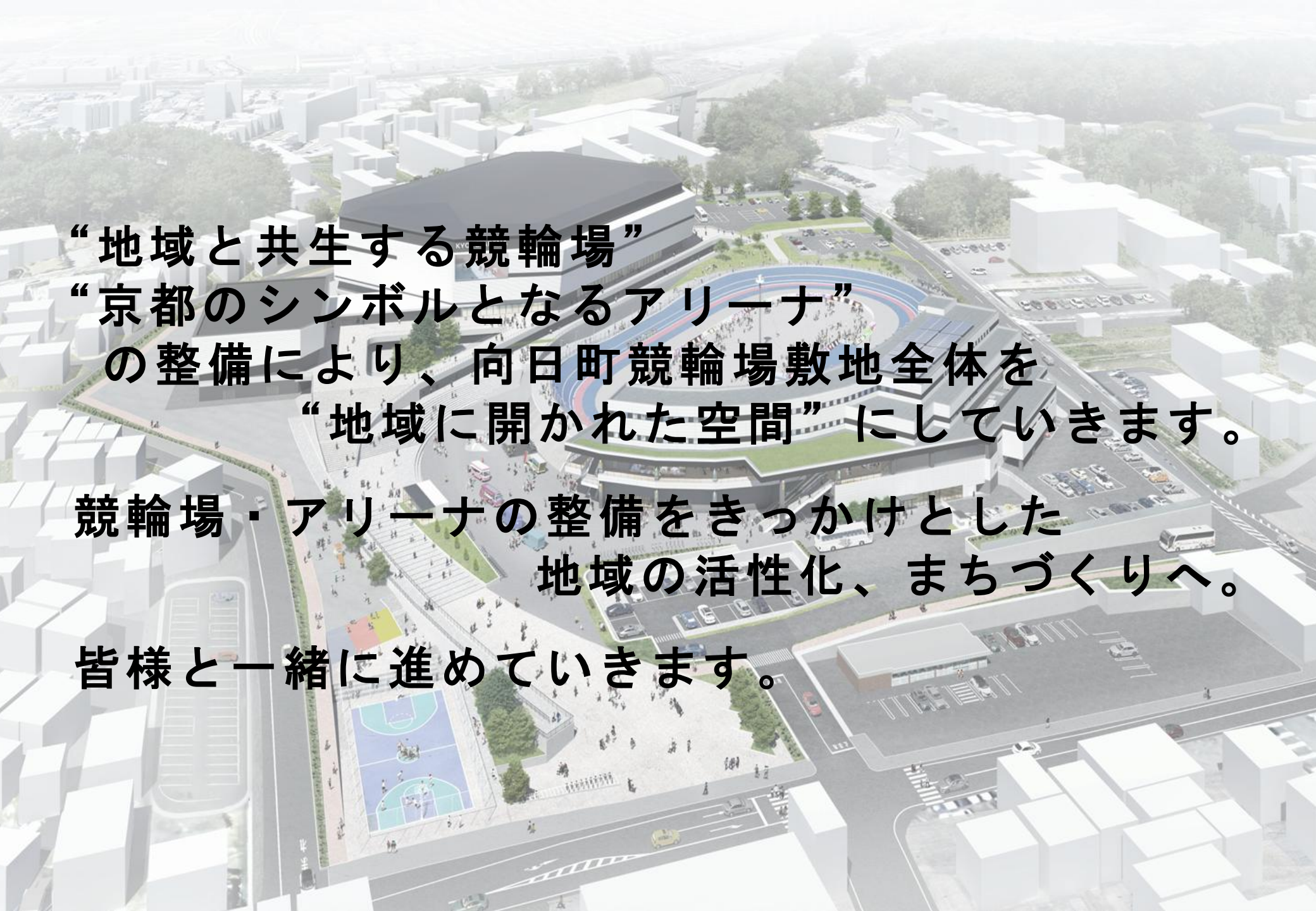
4. 周辺道路等の整備について④

- 都市計画道路 御陵山崎線等の事業中区間
⇒ 道路事業の推進



【事業中箇所】

- 都市計画道路御陵山崎線
 - A工区 (寺戸事務所前北工区)
 - B工区 (競輪場前工区)
 - C工区 (福祉会館前北工区)
- 府道中山向日線 (大原野口交差点)

An architectural rendering of the Kyushu National Stadium and its surrounding urban development. The stadium is a large, modern structure with a blue and white facade and a curved roof. It is surrounded by a large parking lot, a pedestrian plaza, and a basketball court. The surrounding area includes residential buildings, commercial buildings, and green spaces. The text is overlaid on the image, providing information about the stadium's role as a symbol of Kyoto and its impact on the local community.

“地域と共生する競輪場”
“京都のシンボルとなるアリーナ”
の整備により、向日町競輪場敷地全体を
“地域に開かれた空間”にしていきます。

競輪場・アリーナの整備をきっかけとした
地域の活性化、まちづくりへ。

皆様と一緒に進めていきます。